

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																											
広島ビューティーアンド プライダル専門学校		平成25年4月1日		大原 隆		〒732-0821 広島県広島市南区大須賀町15番24号 (電話) 082-568-6821																											
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																											
学校法人三幸学園		昭和60年3月8日		昼間 一彦		〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-6151																											
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																											
衛生	衛生専門課程	トータルビューティー科			平成22年文部科学省 告示第26号	—																											
学科の目的	「世の中の困難を希望に変える」をミッションとし、本学科は、学校教育法に基づき、美容の関連分野において活躍する人材を育成するため、必要とされる知識と技術を教授することを目的としている。																																
認定年月日	平成28年2月19日																																
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数 又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																										
2年	昼間	62	75	62	3	0	12																										
単位																																	
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数		総教員数																											
80人	149人	0人	13人	22人		35人																											
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～翌年3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: シラバスに定められた基準に基づき、100点法で素点を出し、それを20で割り四捨五入した5点法に換算する。 評価の方法: 試験、レポート、履修状況等を総合的に勘案して行う。																												
長期休み	■学年始: 4月1日 ■夏季: 7月下旬から8月下旬までの約1か月 ■冬季: 12月下旬から1月上旬までの約2週間 ■春季: 3月上旬から4月上旬までの約1か月 ■学年末: 3月31日			卒業・進級条件	卒業要件: 本校に修業年限以上在学し所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に、卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示すとおりとする。 進級要件: なし																												
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任制をとり、本人及び保護者との電話連絡並びに、三者面談等を実施し、常に状況の確認を行う。また、カウンセリンググループを紹介するなど、担任のみならず学校に関わる教職員でサポートしている。			課外活動	■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 海外研修、ボランティア活動、学校行事実行委員会等 ■サークル活動: 有																												
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) エステティックサロン・ネイルサロン・フォトスタジオ・化粧品売り場等 ■就職指導内容 就職実習対策の授業内で履歴書や面接指導を行う。またクラス担任と地域別就職担当が連携し学生をサポートしている。 ■卒業生数: 50人 ■就職希望者数: 42人 ■就職者数: 39人 ■就職率: 93% ■卒業者に占める就職者の割合 : 78% ■その他 ・進学者数: 4人 ・アルバイト者数: 2人 ・就職活動中: 5人 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>トータルメイクアップ検定(ベーシック)</td> <td>③</td> <td>50人</td> <td>50人</td> </tr> <tr> <td>AEA上級認定エステティシャン</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>ネイリスト技能検定3級</td> <td>③</td> <td>49人</td> <td>48人</td> </tr> <tr> <td>パーソナルカラー検定</td> <td>③</td> <td>50人</td> <td>50人</td> </tr> <tr> <td>着付け検定</td> <td>③</td> <td>35人</td> <td>35人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	トータルメイクアップ検定(ベーシック)	③	50人	50人	AEA上級認定エステティシャン	③	16人	16人	ネイリスト技能検定3級	③	49人	48人	パーソナルカラー検定	③	50人	50人	着付け検定	③	35人	35人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																														
トータルメイクアップ検定(ベーシック)	③	50人	50人																														
AEA上級認定エステティシャン	③	16人	16人																														
ネイリスト技能検定3級	③	49人	48人																														
パーソナルカラー検定	③	50人	50人																														
着付け検定	③	35人	35人																														
中途退学の現状	■中途退学者 14名 ■中退率 11% 令和3年4月1日時点において、在学者125名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者111名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 目標喪失等 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による定期的な面談の実施、スクールカウンセラーとの面談、保護者との連携																																

<p>経済的支援 制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>※有の場合、制度内容を記入</p> <p>特待生入学制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 非給付対象</p> <p>※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
<p>第三者による 学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体： 受審年月： 評価結果を掲載したホームページURL</p>
<p>当該学科の ホームページ URL</p>	<p>https://www.sanko.ac.jp/hiroshima-beauty/</p>

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他、教員としての資質・能力の育成に必要な研修に関する事項等

またより正確に業界における動向や求められる人材要件を把握するため、就職・実習先企業や業界団体、資格・検定団体等と関係性を深め、幅広く連携を図ることで、業界の求めるニーズを確実に捉え、本校のカリキュラムや授業内容に反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意思を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するに相応しい教育課程の編成を協力して行うものとして位置づけている。

具体的には、審議を通じて示された教育課程編成に係る意見を基に、副校長および各校教務チームによって教育課程およびシラバスの改善素案が作成され、ビューティーアート分野専門委員会(別紙組織図:各専門委員会)にて提案される。提案に基づき、ビューティーアート分野専門委員会にて審議の上、次年度の教育課程およびシラバスに改善内容が反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
藤田 善洋	有限会社ウイスタリアフィールド 代表取締役	令和4年5月1日 ～令和5年3月31日	③
田嶋 郁代	株式会社ビ・メイク ディレクター兼 日本エステティック業協会振興委員	令和4年5月1日 ～令和5年3月31日	①
石橋 亜希子	広島ビューティアンドブライダル専門学校 副校長		—
平井 知紗	広島ビューティアンドブライダル専門学校		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年6月24日 13:00～14:30

第2回 令和3年12月15日 10:00～11:30

第3回 令和4年6月14日 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会にいただいた以下の意見について対応を行っている。

①「インターンシップ」の依頼の際に、サロンの技術を学生自身に体験させてもらえるように依頼してみてもどうか? というご意見について

⇒対応:依頼企業に趣旨と目的をつたえ、お客様の立場が体感できるように依頼時に伝える準備をしている。

②「サロンマナー」では施術中のマナーとは別に会計や商品の預かり方や返却のマナー等も実践できるようにしてはどうか? というご意見について

⇒対応:サロンマナーの授業の中において、サロンワークを想定したロールプレイングを入れるように準備をしている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

基本方針として「お客様を美しくすることで感謝される」「サロン・組織を活性化できる人材を育成する」という本校人材育成方針のもとに関連企業等との連携で実践的かつ専門的な職業教育を実践していくこと。

美容業界においては技術力と接客力が重要であるということ是不変のものであり、双方を兼ね備えることで長く業界で活躍することができ、業界の発展にも繋がっていくことから、本校教育理念である「技能(知識・技術・理論)」と「心(人間教育・対人基礎力)」の調和をもとに授業計画から本校教員も参加し、「技術・理論の習得レベル」及び「マナー」・「コミュニケーション」など現場に即した内容を検討、そして定期的に授業の振り返りを行い継続的かつ改善工夫を実施している。企業等と連携することで、より早く現場の変化や課題に対しての対応及び教育への反映し、本校そして業界の求める「人材の育成」に貢献できると考える。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

* 授業内容について

(1年次より現場実習を想定し、美容業界に必要な基本知識・技術を始め職業観を育むに足る新技術を習得する)

* 評価について

(連携企業による項目別の評価をもとに最終評価に反映させ、成績認定を行うものとする)

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
サロンワークⅠ-D・ サロンワークⅡ-D	卒業後のサロンワークを想定し、集客接客などを含めサロンの開店準備からオープンまでの全てを学び実際にお客様を及びして施術を行う。	株式会社ビーイング
サロンワークⅠ-E・ サロンワークⅡ-E	卒業後のサロンワークを想定し、集客接客などを含めサロンの開店準備からオープンまでの全てを学び実際にお客様を及びして施術を行う。	株式会社ビーイング
サロンワークⅡ-F・ サロンワークⅢ-F	卒業後のサロンワークを想定し、集客接客などを含めサロンの開店準備からオープンまでの全てを学び実際にお客様を及びして施術を行う。	株式会社ビーイング

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

実践的かつ専門的な職業教育を実施し、明日の美容業界を担う人材を養成するためには、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、「研修等に係る諸規程」に基づき、計画的に以下の研修を実施している。

- ・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修
- ・企業等から講師を招いた指導力の修得・向上のための研修

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「美容業界の今」と「自分に合ったサロンの見つけ方」	連携企業等: 株式会社 リクルートライフスタイル
期間: 令和3年8月21日(金)	対象: 10名
内容: コロナ禍における美容業界の新たな取り組みと必要な技術について	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「今一度確認しておきたい 生徒のやる気を引き出す為の脚 本術・話術」	連携企業等: 株式会社アビリティトレーニング
期間: 令和3年9月29日(水)	対象: 30名
内容: 生徒を引き付ける授業での脚本作りと話術について	

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 作品をより良く表現するフォト撮影の技術	連携企業等: ART
期間: 令和4年8月15日(月)	対象: 10名
内容: 作品をより良く表現する為のフォト技術や知識の研修	
研修名: コンテストに強くなる基礎技術	連携企業等: ネイルスクールパニラ 池松まり子様
期間: 令和4年8月19日(金)	対象: 10名
内容: コンテストで入賞する為のスカalpと赤ポリッシュ技術の教え方ポイント	
研修名: 『VR教育の可能性と効果』	連携企業等: 株式会社iii 寺村優太様
期間: 令和4年8月19日(金)	対象: 30名
内容: VRが秘めた教育の可能性について	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 『学び方・教え方・働き方の未来』AIやテクノロジーがもたら す教育・仕事革命	連携企業等: 京都大学高等教育研究開発 促進センター 吉 透様
期間: 令和3年10月17日(日)	対象: 40名
内容: 現代の学び方やあらたなテクノロジーを使用した教育について	
研修名: 心に響くコミュニケーション『ペップトーク』 ～やる気を引き出す魔法の言葉～	連携企業等: 日本ペップトーク普及協会
期間: 令和4年9月28日(水)	対象: 40名
内容: 学生の意欲を起こさせる短くてわかり易いトーク術	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、関連分野の業界関係者及び卒業生、地域に根差した関連企業と共に、学校関係者評価委員会を設置して、教育目標や教育について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする。
 学校関係者評価は、「専修学校における学校評価のガイドライン」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「実施することを基本方針とする。また評価結果は学校のホームページで公表し、委員会で得られた意見についてはすみやかに集約し、各業務担当者にフィードバックすることで、学校運営の改善に生かすものとする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	(11) 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

委員会にていただいた以下の意見について対応を行っている。

① コロナ感染の環境を経て、更にお客様とのコミュニケーションの重要性が高まっている。「サロンワーク」を重視し実際におもてなしを実践出来る環境を作っていく必要があるのではというご意見について
 ⇒ 対応: 郊外において実施していた「サロンワーク」を、校舎実習施設(ビューティーサロン)を併設し、お客様を学校にお招きし、おもてなしの実践ができるように準備対応している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
田中 延恵	株式会社YOU-2	令和4年6月1日 ～令和5年3月31日(1年)	企業等委員
小笠原 理恵	株式会社ビーチェ	令和4年6月1日 ～令和5年3月31日(1年)	卒業生
森下 圭	飛鳥未来高等学校 広島キャンパス	令和4年6月1日 ～令和5年3月31日(1年)	教育機関

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.sanko.ac.jp/hiroshima-beauty/disclosure/>

公表時期: 令和4年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則って情報提供を行うことを基本方針とし、以下の姿を目指す。

1. 学校の指導方針や課題への対応方法等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につなげること。
2. 入学希望者やその保護者に対し、進路選択に当たっての有用な情報を提供するとともに、一人ひとりの能力・適性にあった望ましい進路の実現に資すること。
3. キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習・就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげること。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標および計画
(2)各学科等の教育	学科概要、カリキュラム、シラバス、客観的な指標の算出方法、卒業要件、目指すべき人材像、取得可能資格、就職実績
(3)教職員	教員数、組織、専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み、実習実技への取り組み
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事
(6)学生の生活支援	生活上の諸問題への対応
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、就学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.sanko.ac.jp/hiroshima-beauty/disclosure/>

公表時期: 令和4年7月31日

授業科目等の概要

(衛生専門課程トータルビューティー科)令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		サロンマナー I	敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など社会人としての考え方、ルールやマナーを身につける。美容の現場で敬語の使い方ができるようになる。社会人としてのマナーを身につける。	1前	30	2	○			○			○	
2	○		カラーコーディネート I	ファッションコーディネートの現場で即戦力となるように、色に関する知識・法則・技法を理論的かつ実践的に身に付ける。パーソナルカラーコーディネートの資格を目指す。	1前	30	2	○			○			○	
3	○		未来デザインプログラム I	ビジネス書の「7つの習慣」を教材に使い、7つの項目を習慣化することにより成功する為の力を養う。	1前	15	1	○			○			○	
4		○	デッサン・イラストレーション	物の形をより観察する力と洞察力を養うことでより深く芸術を理解できる。またデッサン力から応用することによりコミュニケーション能力を高める。	1前	30	2	○			○			○	
5		○	皮膚学 I	皮膚の働きやしきみを理解し、美しく健康に保つためのスキンケアの方法を学ぶ。・皮膚の基礎知識・美容上大切な皮膚の6つの働き。	1前	30	2	○			○			○	
6		○	生理学 I	人体の仕組み、構造と働きの基本を理解する。・骨格系・筋系・神経系。	1前	30	2	○			○			○	
7		○	栄養学 I	人間の栄養素の必要量、食品成分、食料の消費と経済、食習慣、食品の栄養価、食事と健康を理解する。5大栄養素・栄養所要量・食物摂取とその消費吸収。	1前	15	1	○			○			○	
8		○	化粧品学 I	化粧品の法律上の扱いや分類、取り扱い上の留意点、化粧品の目的と機能、使用される主な原料を学ぶ。化粧品概論・ネイル・メイク・ヘアケア化粧品・フレグランス・化粧品の原料。	1前	15	1	○			○			○	
9		○	エステティック概論・衛生学・関係法規 I	エステティックの全体像を正しく理解し、本質を知る。法の基礎知識を学び、エステティックに関わる法律、自主基準を理解する。法の基礎知識・公衆衛生・衛生管理。	1前	15	1	○			○			○	
10		○	ベーシックエステ I	身体や皮膚の生理機能に基づいたフェイシャル・ボディトリートメントを学び、エステティックの流れ、基本の手技を覚え一つ一つの手技の意味を理解する。	1前	60	2	○			○			○	
11		○	ベーシックネイル I	JNECネイリスト技能検定3級取得を目指し、ネイルケア～カラーリング・アートまでのネイルの基礎を学ぶ。	1前	60	2	○			○			○	
12		○	ベーシックメイク I	メイクアップ化粧品の特徴と適切な使用方法を理解すると同時に、スキンケア～メイクアップテクニックをマスターしフルメイク基礎技術を身に付ける。	1前	60	2	○			○			○	
13		○	就職対策 I	就職の心構えや目的から伝え、企業のエントリー方法や実践的な面接指導、そして内定までの流れを指導する。	1前	15	1	○			○			○	
14		○	モデル入門	モデルとしての意識を持ち、今の自分(体型や個性)を自覚し、美しいウォーキングの技術を学ぶ。そのために必要な基礎筋肉や中心軸を鍛えながら、骨格を整え基礎を身につける。	1前	30	1	○			○			○	
15	○		カラーコーディネート II	ファッションコーディネートの現場で即戦力となるように、色に関する知識・法則・技法を理論的かつ実践的に身に付ける。パーソナルカラーコーディネートの資格を目指す。	1後	30	2	○			○			○	
16	○		未来デザインプログラム II	ビジネス書の「7つの習慣」を教材に使い、7つの項目を習慣化することにより成功する為の力を養う。	1後	15	1	○			○			○	
17		○	就職対策 II	就職の心構えや目的から伝え、企業のエントリー方法や実践的な面接指導、そして内定までの流れを指導する。	1後	15	1	○			○			○	
18	○		サロンマナー II	敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など社会人としての考え方、ルールやマナーを身につける。美容の現場で敬語の使い方ができるようになる。社会人としてのマナーを身につける。	1後	15	1	○			○			○	
19		○	SNS・WEB・フォトスキル	美容業界の現状や顧客のニーズを把握し、SNS・WEB・フォトスキルを活用したマーケティング・集客を理解し実践できるようになる。また、顧客の共感や集客につながるメッセージや写真をTwitter、Instagram、LINE@などのSNSやWEBを通じて発信できるように、各コンテンツの基礎知識から運用ルールを把握、理解し、実践できるようにする。	1後	15	1	○			○			○	
20		○	皮膚学 II	皮膚の働きやしきみを理解し、美しく健康に保つためのスキンケアの方法を学ぶ。・肌の美しさを損ねる要因・様々な肌状態・肌と環境・肌分析。	1後	30	2	○			○			○	

(衛生専門課程トータルビューティー科)令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
		○	生理学Ⅱ	人体の仕組み、構造と働きの基本を理解する。・内分泌系・呼吸器系・循環器系・消化器系・生殖器系。	1後	30	2	○			○			○	
		○	栄養学Ⅱ	人間の栄養素の必要量、食品成分、食料の消費と経済、食習慣、食品の栄養価、食事と健康を理解する。栄養学から見た食品・健康と栄養・サプリメント・食品添加物。	1後	15	1	○			○			○	
		○	化粧品学Ⅱ	化粧品の法律上の扱いや分類、取り扱い上の留意点、化粧品の目的と機能、使用される主な原料を学ぶ。フェイシャル・ボディ化粧品、化粧品に用いられる薬剤とその働き。	1後	15	1	○			○			○	
		○	ベーシックネイルⅡ	ベーシックネイルⅠに続き、JNECネイリスト技能検定2級課題であるチップラップ(付け爪)の技術の基礎から応用まで学ぶ。	1後	30	1		○		○		○		
		○	ベーシックエステⅡ	エステティック機器の使用法・注意事項・禁止事項を学び、肌・体の状態に合ったフェイシャル・ボディトリートメントを理解する。	1後	30	1		○		○			○	
		○	ビューティーカウンセリング	メイク業界で仕事をしていくための基礎知識や各化粧品メーカーの分析、肌知識からのカウンセリングテクニック、接客技術を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
		○	検定メイクⅠ	資格取得の為にメイク基礎知識技術を身に付け、カウンセリングメイク対応技術を習得する。	1後	45	3	○			○			○	
		○	ヘアアレンジⅠ	頭部・骨格の名称、ブッキングの方法等を学習した後、ホットカーラー、ピン打ち、黒ゴムの結び方、編み込み、コテの使い方等の基礎テクニック習得を目指す。	1後	60	2		○		○			○	
		○	パーソナルメイク	メイクの基礎技術をテーマに合わせたメイクテクニックを学び実践に活かせるよう身に付ける。	1後	45	1		○		○			○	
		○	ベーシックメイクⅡ	資格取得の技術を知識を身に付け、顔分析力、パーソナルメイクアップテクニックを身に付ける。	1後	30	1		○		○			○	
		○	エステティックカウンセリングⅠ	一人ひとりの心や体の悩みの相談に応じて人間的な理解を深めて、悩みを解決へと導く心理学に基づく療法を理解する。	1後	15	1	○			○			○	
		○	エステティック概論・衛生学・関係法規Ⅱ	エステティックの全体像を正しく理解し、本質を知る。法の基礎知識を学び、エステティックに関わる法律、自主基準を理解する。人の身体に直接関連する法律。	1後	15	1	○			○			○	
		○	プロフェイシャルⅠ	トラブル別に使用する化粧品・機器を理解し、その使用方法・注意事項・禁止事項を学び肌の状態にあったトリートメントを提供できる知識、技術を身に付ける。	1後	60	2		○		○			○	
		○	プロボディⅠ	トラブル別に使用する化粧品・機器を理解し、その使用方法・注意事項・禁止事項を学び肌の状態にあったトリートメントを提供できる知識、技術を身に付ける。	1後	60	2		○		○			○	
		○	アロマセラピーⅠ	精油が心身に与える影響を理解し、精油の製造方法や使用方法を学ぶ。健康維持の為に用いる知識や説明ができるようになる。	1後	30	2	○			○			○	
		○	スカルプチュア	JNECネイリスト技能検定1級の課題の一つとなっている、アクリル樹脂のパウダーとリキッドを使用した付け爪で、短い爪の長さ出す技術を学ぶ。	1後	45	1		○		○			○	
		○	ネイルケア&ネイルアートⅠーF	JNEC2級検定へ向けて、ニッパーのハンドリングやファイリング技術の強化と共に、様々なネイルアート(フラット)を描くことが出来る。2級レベルのネイルケア技術(お金を頂くことが出来る技術力)と与えられた課題のアートが描ける。	1後	45	2		○		○			○	
		○	検定対策Ⅰ	JNELネイリスト技能検定2～3級とJNAジェルネイル技能検定初級の取得を目指し技術強化を行う。	1後	45	3	○			○			○	
		○	ジェルネイルⅠ	JNAジェルネイル技能検定初級の取得を含め、ジェルネイルについての技術・知識を学ぶ。	1後	45	1		○		○			○	
		○	コンテストⅠ	ネイルのコンペティションの出場を目指し、技術強化していく授業。	1後	15	1	○			○			○	
		○	サロンワークⅠーF	実際のサロンでのお客様対応や施術を学び、トラブルの回避を自身で考え対応でき、実践を通して技術を習得する。お客様に施術などの説明ができ、満足の頂ける技術及び接客が出来る。	1後	45	1			○	○			○	

(衛生専門課程トータルビューティー科)令和4年度																
必 修	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択	講 義						演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
42	○		サロンワークⅡーF	実際のサロンでのお客様対応や施術を学び、トラブルの回避を自身で考え対応でき、実践を通して技術を習得する。お客様に施術などの説明ができ、満足の頂ける技術及び接客が出来る。	2前	45	1			○	○		○			○
43	○		サロンワークⅢーF	実際のサロンでのお客様対応や施術を学び、トラブルの回避を自身で考え対応でき、実践を通して技術を習得する。お客様に施術などの説明ができ、満足の頂ける技術及び接客が出来る。	2後	45	1			○	○		○			○
44		○	施設実習	現場での実習勤務を通して、1日及び1週間の流れを学び、お客様を迎えるまでの準備や施術中の役割の理解を深め、接客の基本姿勢を学ぶ。	2前	80	2			○		○	○			
45		○	就職対策Ⅲ	就職の心構えや目的から伝え、企業のエントリー方法や実践的な面接指導、そして内定までの流れを指導する。	2前	15	1	○			○		○			
46		○	就職対策Ⅳ	就職の心構えや目的から伝え、企業のエントリー方法や実践的な面接指導、そして内定までの流れを指導する。	2	15	1	○			○		○			
47		○	着付けⅠ	着物文化の指導者として検定取得を目指し、着付けの技術や着装の指導など、着物全般に対するアドバイスを行う為の知識を習得する。	2前	30	1		○		○					○
48		○	着付けⅡ	着物文化の指導者として検定取得を目指し、着付けの技術や着装の指導など、着物全般に対するアドバイスを行う為の知識を習得する。	2後	30	1	○			○					○
49		○	ヘアアレンジⅡ	頭部・骨格の名称、ブロッキングの方法等を学習した後、ホットカーラー、ピン打ち、黒ゴムの結び方、編み込み、コテの使い方等の基礎テクニック習得を目指す。	2前	45	1		○		○					○
50		○	ヘアアレンジⅢ	頭部・骨格の名称、ブロッキングの方法等を学習した後、ホットカーラー、ピン打ち、黒ゴムの結び方、編み込み、コテの使い方等の基礎テクニック習得を目指す。	2後	45	1		○		○					○
51		○	ビューティー カウンセラーメイクⅠ	幅広いメイクアップ技術と肌の知識、カウンセリング方法等、ビューティーカウンセラーになる為の知識や技術を学ぶ。	2前	60	4	○			○					○
52		○	ビューティー カウンセラーメイクⅡ	幅広いメイクアップ技術と肌の知識、カウンセリング方法等、ビューティーカウンセラーになる為の知識や技術を学ぶ。	2後	60	4	○			○					○
53		○	ブライダルメイクⅠ	ブライダルの様々なシーンに合わせたメイクアップの知識と技術を学ぶ際、所作や言葉使いも併せて出来るようになる。	2前	45	2		○		○					○
54		○	ブライダルメイクⅡ	ブライダルの様々なシーンに合わせたメイクアップの知識と技術を学ぶ際、所作や言葉使いも併せて出来るようになる。	2後	45	2		○		○					○
55		○	特殊メイクⅠ	色やラインとりをしっかりと行う事で、日常に行うメイクアップの応用力に繋がる事を理解する。	2前	45	2		○		○					○
56		○	特殊メイクⅡ	色やラインとりをしっかりと行う事で、日常に行うメイクアップの応用力に繋がる事を理解する。	2後	45	2		○		○					○
57		○	アーティストメイクⅠ	年代別のメイクを理解して、トレンドなメイクとの繋がりを理解する。	2前	45	2		○		○					○
58		○	アーティストメイクⅡ	年代別のメイクを理解して、トレンドなメイクとの繋がりを理解する。	2後	45	2		○		○					○
59		○	フォト&ファッションⅠ	メイクアップ効果を上げる為の色・光・影の出方を知る。SNS映えについての知識を深められる様にする。自身の好みだけにとられない様、幅広く興味を持てる様に知識を増やせるようにする。	2前	15	1	○			○					○
60		○	フォト&ファッションⅡ	メイクアップ効果を上げる為の色・光・影の出方を知る。SNS映えについての知識を深められる様にする。自身の好みだけにとられない様、幅広く興味を持てる様に知識を増やせるようにする。	2後	15	1	○			○					○
61	○		サロンワークⅠーD	サロンでお客様への接客対応や施術方法を学び、お客様をお迎えして実践して、自身の技術向上を目指す。	2前	60	2			○	○		○			○
62	○		サロンワークⅡーD	サロンでお客様への接客対応や施術方法を学び、お客様をお迎えして実践して、自身の技術向上を目指す。	2後	60	2			○	○		○			○
63	○		サロンワークⅠーE	サロンでお客様への接客対応や施術方法を学び、お客様をお迎えして実践して、自身の技術向上を目指す。	2前	60	2			○	○		○			○
64	○		サロンワークⅡーE	サロンでお客様への接客対応や施術方法を学び、お客様をお迎えして実践して、自身の技術向上を目指す。	2後	60	2			○	○		○			○

(衛生専門課程トータルビューティー科)令和4年度																	
必 修	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
	選 択 必 修	自 由 選 択	授 業 科 目 名						授 業 科 目 概 要	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任		兼 任
65		○	エステティック カウンセリングⅡ	顧客の悩みや状態について原因・要因を考え、的確に状態を見極め、カウンセリングシートを作成する。お手入れとアドバイスを専門的に与える知識を身に付ける。	2 前	30	2	○			○	○					
66		○	エステティック カウンセリングⅢ	顧客の悩みや状態について原因・要因を考え、的確に状態を見極め、カウンセリングシートを作成する。お手入れとアドバイスを専門的に与える知識を身に付ける。	2 後	30	2	○			○	○					
67		○	サロントリートメントⅠ	選択科目の知識、技術を学び、安全に施術を行うことができる。	2 前	45	2		○		○				○		
68		○	サロントリートメントⅡ	選択科目の知識、技術を学び、安全に施術を行うことができる。	2 後	45	2		○		○				○		
69		○	プロボディⅡ	ボディテクニック総合。(格試験対応)クライアントに対応した知識、技術の習得。・コンサルテーション・エステティック機器・ハンドテクニック・接客マナー。	2 前	60	2		○		○			○			
70		○	プロボディⅢ	ボディテクニック総合。(資格試験対応)クライアントに対応した知識、技術の習得。・コンサルテーション・エステティック機器・ハンドテクニック・接客マナー。	2 後	60	2		○		○			○			
71		○	プロフェイシャルⅡ-B	フェイシャルテクニック総合知識を用い、AEA上級認定エステティシャン資格試験に合格する。	2 前	90	4		○		○				○		
72		○	プロフェイシャルⅢ-B	フェイシャルテクニック総合知識を用い、AEA上級認定エステティシャン資格試験に合格する。	2 後	90	4		○		○				○		
73		○	エステティック総論Ⅰ-B	エステティック知識総合(・皮膚学・生理解剖学・栄養学・化粧品学・概論・衛生・自然科学・電気学)を学びAEA上級認定エステティシャン筆記試験の合格を目指す。	2 前	30	2	○			○			○			
74		○	エステティック総論Ⅱ-B	エステティック知識総合(・皮膚学・生理解剖学・栄養学・化粧品学・概論・衛生・自然科学・電気学)を学びAEA上級認定エステティシャン筆記試験の合格を目指す。	2 後	30	2	○			○			○			
75		○	検定対策Ⅱ	JNECネイリスト技能検定2～1級とJNAジェルネイル検定技能検定中級～上級の取得を目指し技術強化を行う。	2 前	60	4	○			○				○		
76		○	検定対策Ⅲ	JNECネイリスト技能検定2～1級とJNAジェルネイル検定技能検定中級～上級の取得を目指し技術強化を行う。	2 後	60	4	○			○				○		
77		○	検定対策& スカルプチュアⅠ	JNECネイリスト技能検定2～1級取得を目指して技術強化を行う。	2 前	60	4	○			○				○		
78		○	検定対策& スカルプチュアⅡ	JNECネイリスト技能検定2～3級取得を目指して技術強化を行う。	2 後	60	4	○			○				○		
79		○	ジェルネイルⅡ	JNAジェルネイル技能検定中級～上級の取得を含め、ジェルネイルについての技術・知識を学ぶ。	2 前	60	2		○		○				○		
80		○	ジェルネイルⅢ	JNAジェルネイル技能検定中級～上級の取得を含め、ジェルネイルについての技術・知識を学ぶ。	2 後	60	2		○		○				○		
81		○	コンテストⅡ	ネイルのコンペティションの出場を目指し、技術強化を行う。	2 前	30	1		○		○				○		
82		○	コンテストⅢ	ネイルのコンペティションの出場を目指し、技術強化を行う。	2 後	30	1		○		○				○		
83		○	ネイルケアⅡ	トリートメント・フットやマシーン技術も含め、全てのネイル技術の基本であるケアをマスターして、更なる技術向上を目指し実践する。 短い施術時間内で無駄の無い正確な技術を行うことができる。	2 前	45	2		○		○				○		
84		○	ネイルケアⅢ	トリートメント・フットやマシーン技術も含め、全てのネイル技術の基本であるケアをマスターして、更なる技術向上を目指し実践する。 短い施術時間内で無駄の無い正確な技術を行うことができる。	2 後	45	2		○		○				○		
85		○	ネイルアートⅡ	フラットアート・3Dアートやエアブラシなど基礎的なアートから高度なアート技術までの全てを学ぶ。	2 前	45	2		○		○				○		
86		○	ネイルアートⅢ	フラットアート・3Dアートやエアブラシなど基礎的なアートから高度なアート技術までの全てを学ぶ。	2 後	45	2		○		○				○		
87		○	インターンシップⅠ-Ⅰ	現場で求められる資質や運営方法を具体的に理解する。	1 前	45	1			○	○			○			

(衛生専門課程トータルビューティー科)令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
88		○	インターンシップⅡ－Ⅰ	現場で求められる資質や運営方法を具体的に理解する。	1 後	45	1			○	○		○		
89		○	インターンシップⅢ－Ⅰ	現場で求められる資質や運営方法を具体的に理解する。	2 前	45	1			○	○		○		
合計					89	科目		159	単位(単位時間)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件: 本校に修業年限以上在学し所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に、卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目担当表に示すとおりとする。		1学年の学期区分	2期
履修方法: 原則として教育課程に定められている順序で履修する。		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。